

2021年3月期 第1四半期 連結決算概況

2020年8月3日



1. 連結損益計算書

(単位:億円)

	20年6月期	19年6月期	増減
売上高	2,021	2,219	▲ 198
売上原価	1,730	1,917	▲ 187
売上総利益	291	302	▲ 11
販売費・一般管理費	247	254	▲ 7
営業利益	43	48	▲ 5
営業外収益	16	18	▲ 2
営業外費用	13	9	▲ 4
経常利益	46	56	▲ 10
特別利益	0	4	▲ 4
特別損失	6	0	▲ 6
税金等調整前四半期純利益	40	60	▲ 21
法人税等	10	18	▲ 9
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	5	▲ 1
親会社株主に帰属する四半期純利益	26	37	▲ 11

20年9月期計画	進捗率
3,850	52%
55	78%
65	71%
30	87%

※ 20年9月期計画は、8/3に上方修正(詳細p.11~13)されておりますが、本表では修正前計画を表示しております。

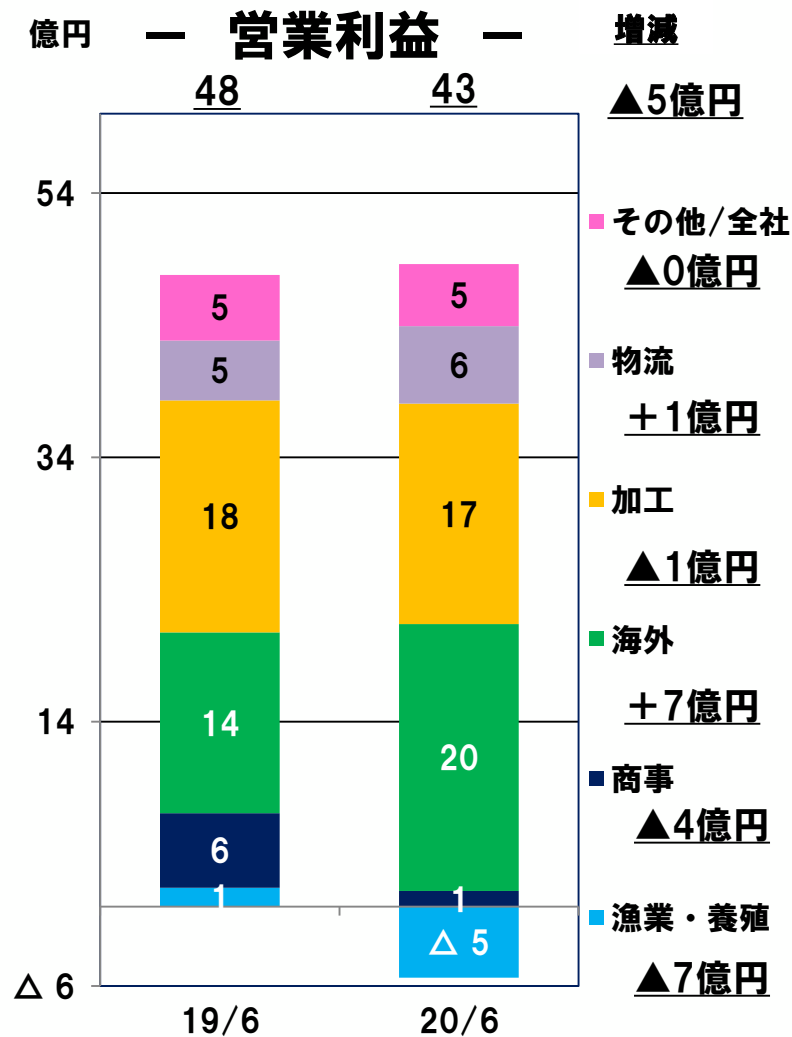
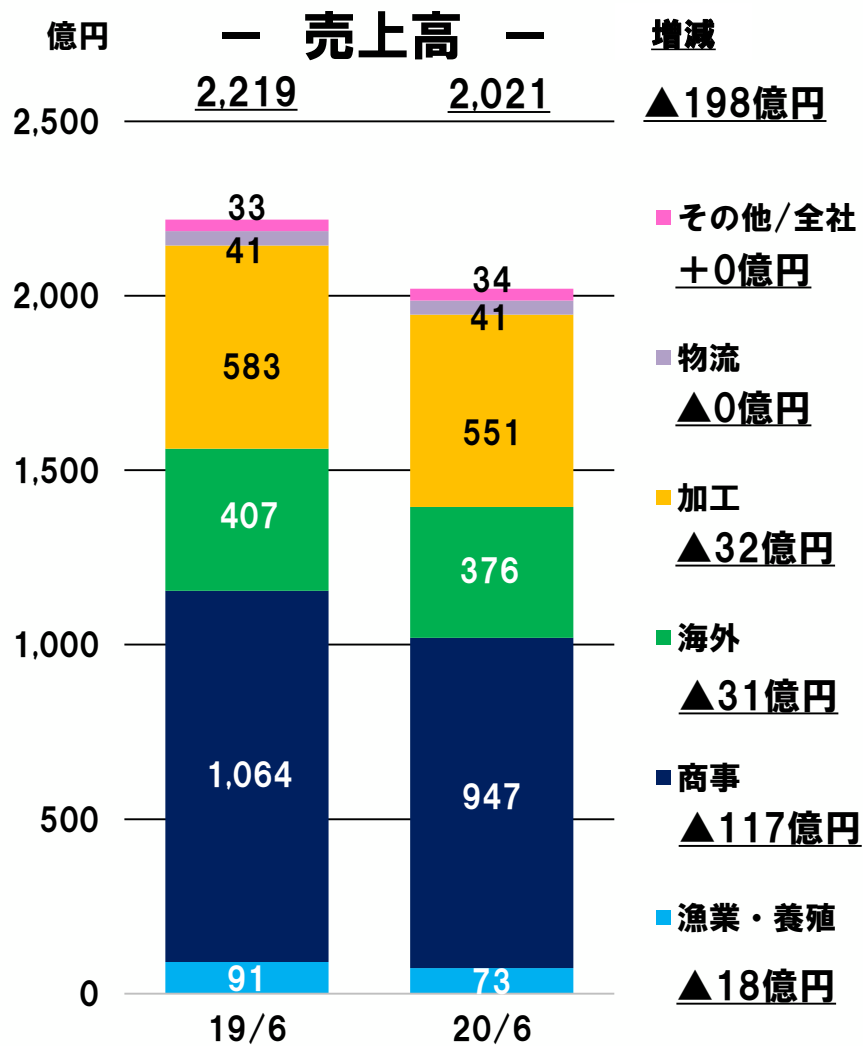
当該期間の実績は、売上高は前年対比8.9%の減収となりました。前年対比の営業利益は10.4%減の43億円、経常利益は17.9%減の46億円となりました。結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は29.7%減の26億円となり、2020年9月期計画の30億円に対し87%の進捗率となりました。なお、為替差損により営業外費用が4億円増加し、前期計上の受取保険金がなくなったことにより特別利益が4億円減少し、固定資産の処分、投資有価証券評価損等により特別損失が6億円増加しています。

2. ユニット別進捗 当初半期予想対比

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		20年 6月期	第2四半期累計 計画	進捗率	20年 6月期	第2四半期累計 計画	進捗率
漁業・養殖	漁業・養殖	73	165	44%	△ 5	△ 9	—
商事	水産商事	332	575	58%	4	5	80%
	荷受	452	828	55%	△ 6	△ 11	—
	畜産商事	163	256	64%	3	2	150%
商事セグメント小計		947	1,659	57%	1	△ 5	224%
海外	アジア・オセアニア	134	249	54%	21	24	88%
	北米・欧州	241	464	52%	△ 1	2	-50%
海外セグメント小計		376	713	53%	20	26	77%
加工	家庭用冷凍食品	159	315	50%	4	10	40%
	家庭用加工食品	97	193	50%	10	16	63%
	業務用食品	254	560	45%	△ 1	△ 4	—
	化成	41	84	49%	4	8	50%
加工セグメント小計		551	1,152	48%	17	30	57%
物流	物流	41	85	48%	6	10	60%
その他		34	76	45%	2	4	50%
全社		-	-	-	2	△ 2	—
合計		2,021	3,850	52%	43	55	78%

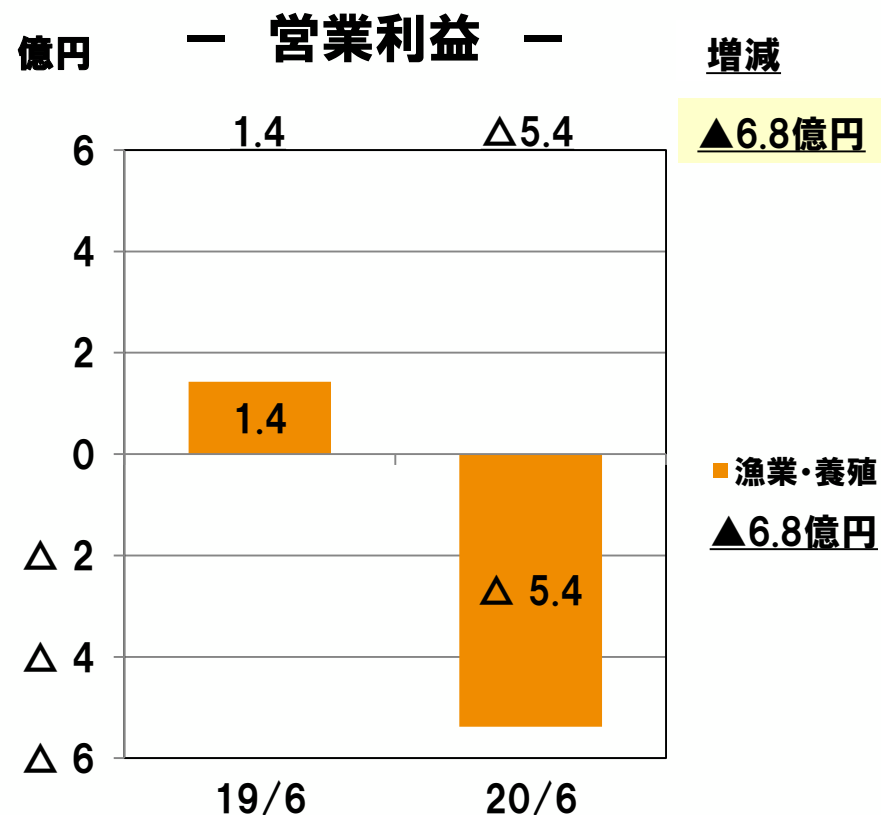
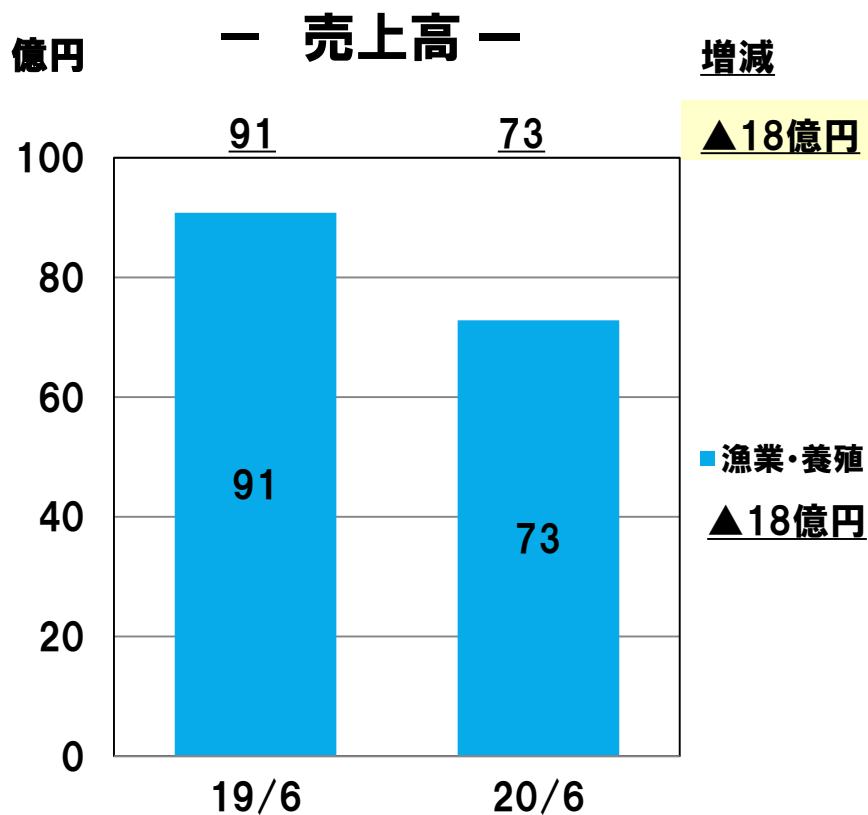
3. セグメント別 売上高／営業利益



4-①. 漁業・養殖セグメント

■事業概況:

まき網事業におけるカツオの漁獲減、新型コロナウイルスの影響による養殖魚の販売減少と相場下落により、減収、減益。



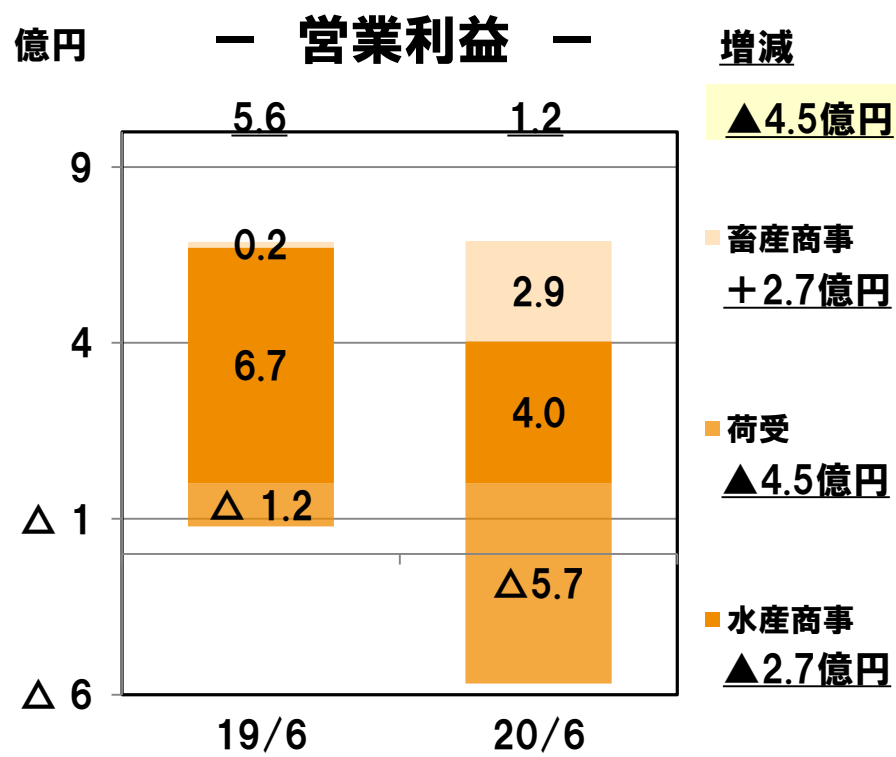
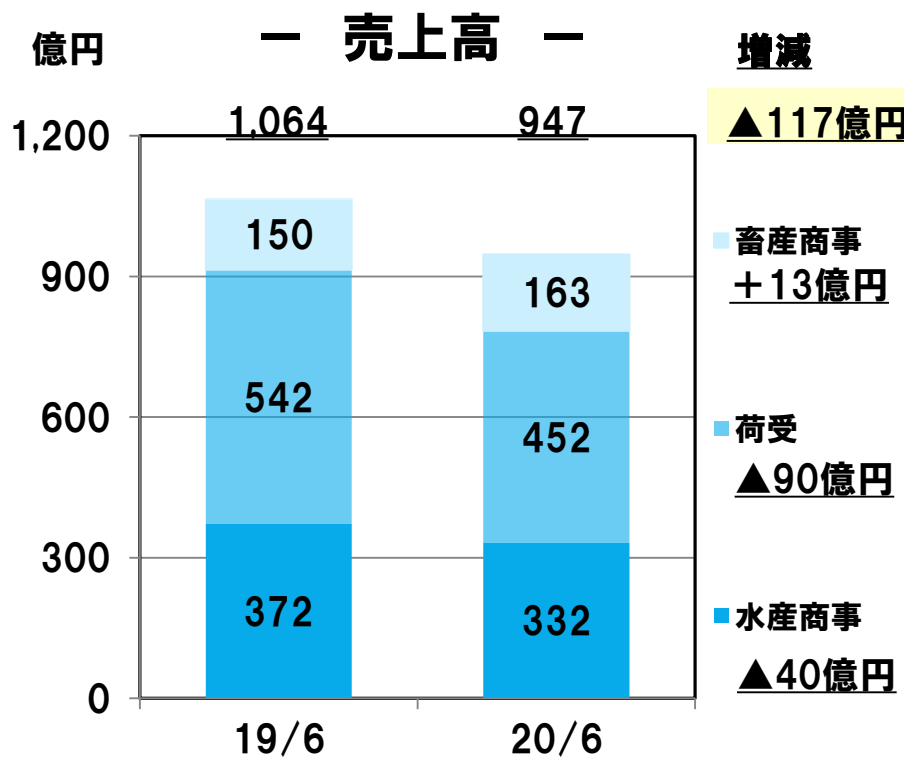
4-②. 商事セグメント

■事業概況:

[水産商事]新型コロナウイルスの影響により、主要魚種の大半における外食・業務筋向けの販売不振により減収減益。

[荷受]新型コロナウイルスの影響に伴う活魚や近海鮮魚等、外食・業務筋向けの高級商材の販売不振により減収減益。

[畜産商事]全取扱品目において取扱い増となり、特に北米ポークの伸長により増収増益。

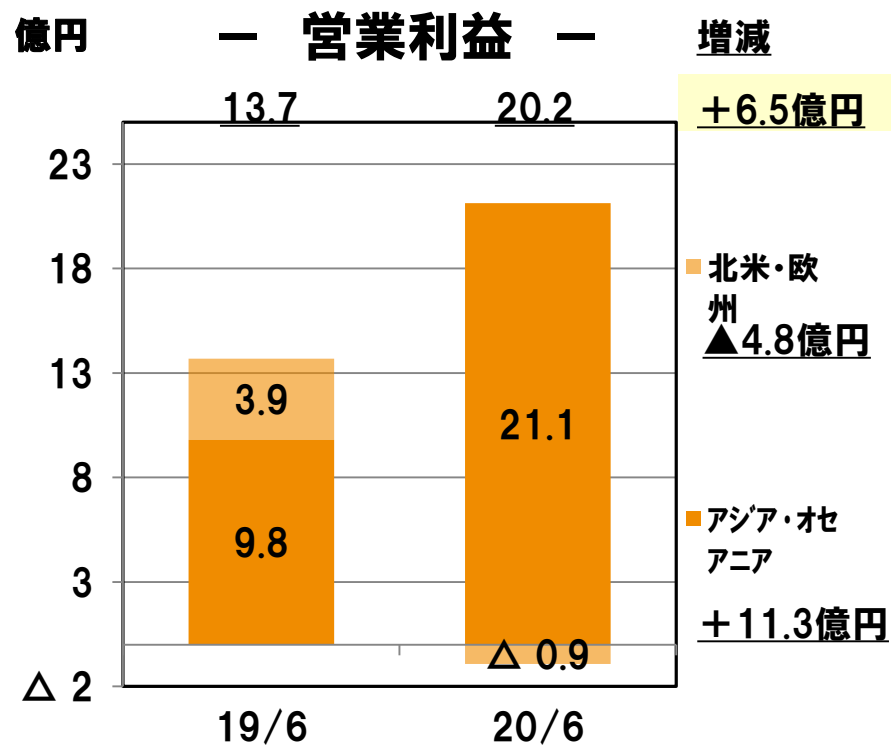
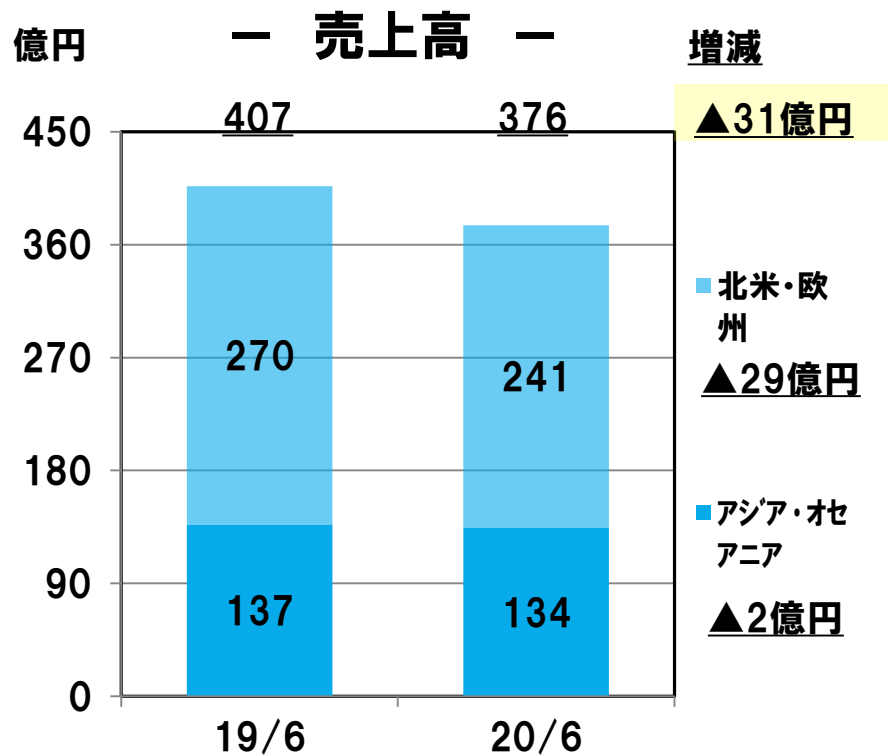


4-③. 海外セグメント

■事業概況:

[アジア・オセアニア]タイでのペットフード事業の好調に加え、ニュージーランドでの漁獲好調・コスト削減により、売上は為替換算の影響による小幅な減収の一方、利益は大幅な増益。

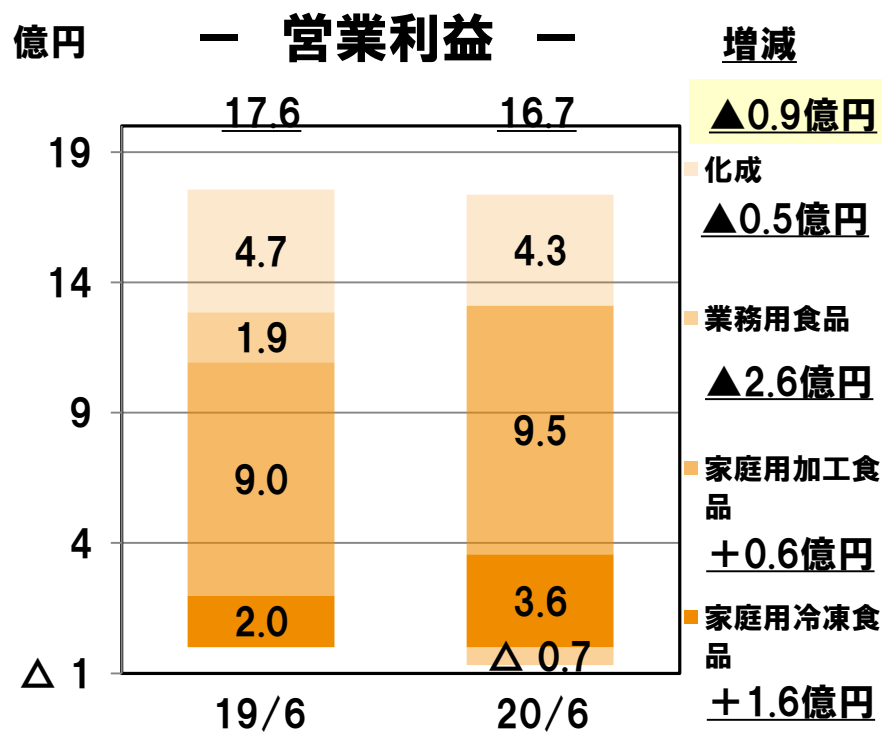
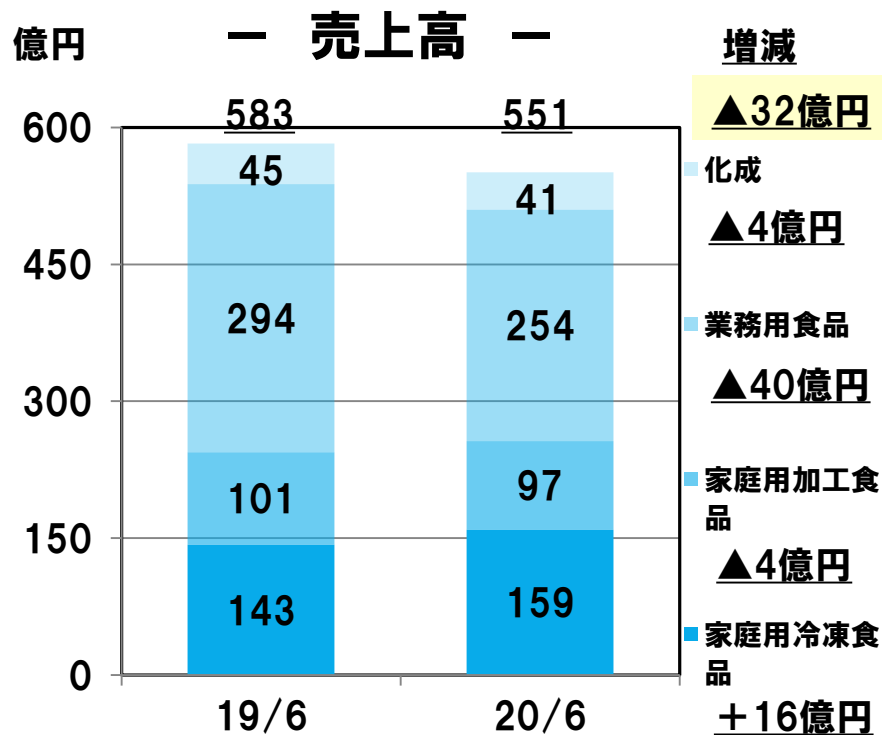
[北米・欧州]すりみの価格下落および日本向け販売の遅延、アラスカズワイカニの生産・販売の遅延等により減収減益。



4-④. 加工セグメント

■事業概況:

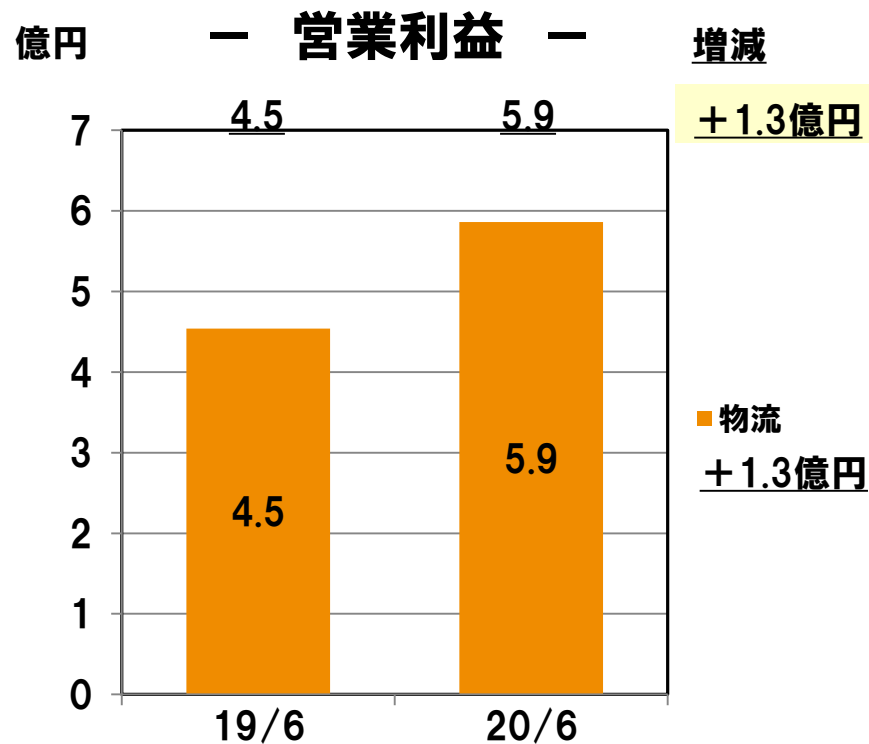
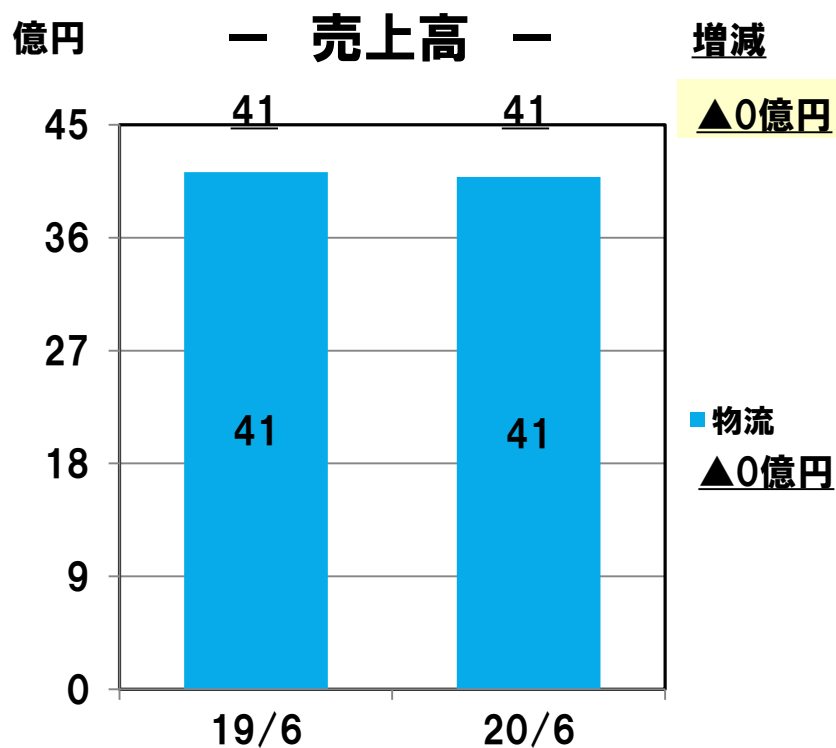
[家庭用冷凍食品] 新型コロナウイルスの影響による巣ごもり需要増もあり、米飯・麺・ピザ等の主食商品の売上増に伴い増収増益。
 [家庭用加工食品] 青魚缶詰・ギフト・デザートの販売減により減収の一方、缶詰・フィッシュソーセージを中心に収益性を重視した販売により増益。
 [業務用食品] 新型コロナウイルスの影響により外食・給食向けの販売が大幅に減少し、生協や介護食向けの販売は好調に推移するものの、減収減益。
 [化成] 前年同期においてDHA・EPAの出荷が集中したこと、また、新型コロナウイルスの影響により中国のフリーズドライ工場の操業が一時停止したことにより減収減益。



4-⑤. 物流セグメント

■事業概況:

新型コロナウイルスの影響により荷動きが鈍化したため、輸配送事業では減収となる一方、冷蔵保管事業において大都市圏における旺盛な保管需要を取り込んだことにより、全体では前年並みとなり、また、冷凍設備換装工事等に伴う減価償却費の増加があったものの、動力費・外注費・労務コスト等が減少したことにより増益。



5. 連結貸借対照表

(単位:億円)

	20/6末	20/3末	増減		20/6末	20/3末	増減
流動資産	3,135	3,020	115	流動負債	2,131	1,995	135
現預金	208	218	▲ 10	仕入債務	358	328	30
売上債権	1,067	1,061	6	短期借入金	1,303	1,225	78
たな卸資産	1,749	1,643	106	その他	470	442	28
短期貸付金	6	7	▲ 1	固定負債	1,762	1,696	66
貸倒引当金	▲ 4	▲ 4	0	長期借入金	1,456	1,392	64
その他	109	96	13	その他	306	304	2
				負債合計	3,892	3,691	201
固定資産	2,305	2,261	45	株主資本	1,352	1,327	25
有形固定資産	1,516	1,482	34	資本金	200	200	-
無形固定資産	179	190	▲ 11	剰余金	1,153	1,128	25
(内 のれん)	66	69	▲ 3	自己株式	▲ 1	▲ 1	▲ 0
投資その他資産	611	588	22	その他の包括利益累計額	▲ 8	▲ 1	▲ 7
				(内 為替換算調整勘定)	▲ 40	▲ 15	▲ 24
				非支配株主持分	204	264	▲ 59
				純資産合計	1,548	1,590	▲ 41
資産合計	5,441	5,281	160	負債純資産合計	5,441	5,281	160

たな卸資産が106億円増加しておりますが、季節的な要因によるものです。また、有形固定資産が34億円増加しているのは、グループ会社のヤヨイサンフーズやマルハニチロ物流等における設備投資によるものであり、無形固定資産が11億円減少しているのは、のれんの償却、為替評価等によるものです。投資その他資産が22億円増加しているのは、主に投資有価証券の評価差によるものです。負債の増加201億円は、主に季節的要因によるたな卸資産の増加等の事業上の資金需要に応じた増加です。前年同期との比較による有利子負債は、27億円の減少となりました。

6. 業績修正 修正予想と当初予想の全体対比

(単位:億円)

	第2四半期累計		
	修正予想	当初予想	差異
売上高	4,220	3,850	370
営業利益	83	55	28
経常利益	85	65	20
親会社株主に帰属する四半期純利益	41	30	11

7. 業績修正 修正予想と当初予想のユニット別対比

(単位:億円)

セグメント	ユニット	第2四半期累計					
		修正予想		当初予想		差異	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
漁業・養殖	漁業・養殖	151	△ 14	165	△ 9	△ 13	△ 5
商事	水産商事	707	8	575	5	133	3
	荷受	977	△ 8	828	△ 11	150	4
	畜産商事	318	4	256	2	62	2
商事セグメント小計		2,003	4	1,659	△ 5	344	9
海外	アジア・オセアニア	260	39	249	24	12	15
	北米・欧州	516	3	464	2	52	1
海外セグメント小計		777	42	713	26	64	16
加工	家庭用冷凍食品	316	9	315	10	2	△ 1
	家庭用加工食品	190	14	193	16	△ 3	△ 1
	業務用食品	551	1	560	△ 4	△ 9	5
	化成	85	9	84	8	1	1
加工セグメント小計		1,142	33	1,152	30	△ 9	3
物流	物流	83	11	85	10	△ 2	1
その他		63	5	77	4	△ 14	0
全社		0	2	0	△ 2	0	4
合計		4,220	83	3,850	55	370	28

8. 業績修正 差異説明

数値単位：億円

セグメント	ユニット	差異説明
漁業・養殖	漁業・養殖 売上高△13、OP△5	新型コロナウイルスの影響により、外食・業務筋向けの養殖魚の販売が想定よりも進まず、販売数量が減少。養殖魚の在庫が増加しており、販売価格下落により収支が悪化する見通し。
商事	水産商事 売上高+133、OP+3	想定よりも販売環境が好転し、売上が伸長する見通し。老健医療食や巣ごもり需要による宅配向けや量販店向けの販売が好調に推移。
	荷受 売上高+150、OP+4	業務筋向けの荷動きは低調であるものの、政府の緊急事態宣言の解除以降、高級品以外の需要は緩やかに戻ってきており、売上の伸びている量販店や専門店等への拡販により販売の落ち込みを緩和。
	畜産商事 売上高+62、OP+2	北米の豚肉供給量減少が見込まれるものの、国産鶏肉や輸入チルドポーク等の量販店向けの需要が増加し、市販用ハム・ソーセージの原料の引き合いも強く、増収増益の見通し。
海外	アジア・オセアニア 売上高+12、OP+15	タイのペットフード事業において、買いだめ需要の増加や缶詰・パウチ品の保存性の高さが評価され、販売が拡大。これにパーツ安や原料安が加わり、大幅な増収増益の見通し。また、オーストラリアのメロ漁業が好漁となり、増収増益の見通し。
	北米・欧州 売上高+52、OP+1	国内は、カナダ産ズワイガニの取扱数量減少を中級すりみの販売増で補完。海外は、欧州の外食向け販売不振も、米国の鮭缶詰やカニカマの販売が想定以上に推移。
加工	家庭用冷凍食品 売上高+2、OP△1	肉食需要拡大を見込んだ計画に対し、ほぼ想定通りに推移。
	家庭用加工食品 売上高△3、OP△1	缶詰・フィッシュソーセージ等で巣ごもり需要一巡。天候要因等でデザートが販売不振の見通し。
	業務用食品 売上高△9、OP+5	政府の緊急事態宣言の解除以降、外食・給食ルートの販売が回復傾向にあり、売上は想定並みの見通し。また、経費削減、工場稼働の増加、原価低減等により増益の見通し。
	化成 売上高+1、OP+1	インバウンド需要の喪失によりコンドロイチンの出荷が落ち込んでいるものの、DHA・EPA等の出荷は順調に推移する見通し。また、巣ごもり需要により、フリーズドライ食品の出荷が伸長し、増益の見通し。
物流	物流 売上高△2、OP+1	荷動きの低迷による輸配送事業の落ち込みにより減収の見通しである一方、外注費・動力費・労務費等の減少により増益の見通し。

お問い合わせ

ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。